



事例紹介

八洲グループ

八洲建設株式会社・株式会社ビオクラシックス半田



愛知県半田市の八洲グループは「未来に誇れる街づくり」を理念とし、脱炭素、循環型社会づくりに取り組みます。



建設業、再エネ、農業など多様な切り口からCN推進

CN取組の内容

● 建設業で中小企業版SBT認定取得

環境省モデル事業に採択され総合建設業で地域初の中小企業版SBT認定を取得。

● ZEB、ZEHの普及促進

断熱性能を高め、太陽光発電等で創エネを行い、建物使用に伴うエネルギー量を実質ゼロとするZEB、ZEHの建築物普及のため、快適性の高さ、レジリエンス、電気料金の低減によるメリットを打ち出し、地域へのZEB、ZEH普及を促進。

● 半田市バイオマス産業都市構想への参画

地域の抱える行政課題の解決と企業課題の同時解決手段としてバイオガス発電施設（ビオぐるファクトリーHANDA）を設置・運営。牛ふん尿や学校給食などの残渣から再生可能エネルギーを創出。施設から出る熱源と排ガスを隣地の農業用ハウスで利用し農業振興にも寄与。

地域
初

ここがポイント

建設業の排出量算定の実証

建設現場では様々な協力事業者が共同で工事施工を行うため、自社での管理が困難であったが、元請けとして排出量責任を明確化し、協力会社それぞれに排出量算定のために稼働時間を記録を求め、全現場での算定を行っている。今後、算定した結果を基に削減に向けたアクションへ移行していく。

本社社屋の『ZEB』化改修、ZEH-Mの建設

本社社屋の断熱改修、空調設備の更新、ソーラーカーポートの導入により、改修事例としては地域初となる最高ランクの『ZEB』の評価を取得。名古屋市内においてコワーキングスペースや共有ラウンジを整備した賃貸マンション開発をZEH-M仕様で実施。

エネルギーおよび廃液の利活用



バイオガス発電施設からの廃液を肥料化するために地域農家と共同で栽培実験を実施中。グループ会社の㈱にじまの次世代型施設園芸ハウスで熱源と排ガスを利用した化石燃料ゼロ栽培によりできた作物を学校給食へ供給するなど、食品循環の仕組みを目指す。

※1) SBT…Science Based Targetsの頭文字を取った言葉。パリ協定達成のために企業が設定する温室効果ガス削減目標。